



日语 拟声拟态词研究

日本語の
擬音語・擬態語に関する研究

徐一平 譙燕 吴川 施建军 著

學苑出版社

日语拟声拟态词研究

日本語の擬音語・擬態語に関する研究

徐一平 譙燕 吴川 施建军 著

學苑出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

日语拟声拟态词研究/徐一平等著. —北京: 学苑出版社,
2010. 3

ISBN 978—7—5077—3515—4

I. ①日… II. ①徐… III. ①日语—拟声词—研究
②日语—拟态—词汇—研究 IV. ①H364. 2

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2010) 第 041106 号

责任编辑: 韩继忠

出版发行: 学苑出版社

社 址: 北京市丰台区南方庄 2 号院 1 号楼

邮政编码: 100079

网 址: www. book001. com

电子信箱: xueyuan@public. bta. net. cn

销售电话: 010—67675512、67678944、67601101 (邮购)

经 销: 新华书店

印 刷 厂: 永清县金鑫印刷有限公司

开本尺寸: 850×1168 1/32

印 张: 9. 375

字 数: 180 千字

印 数: 0001~1500 册

版 次: 2010 年 3 月第 1 版

印 次: 2010 年 3 月第 1 次印刷

定 价: 27. 00 元

本书获日本国际交流基金

出版资助

前 言

拟声词、拟态词词类的发达是日语的特点之一,同时,也是外国人学习日语时的难点之一,关于这一点,许多语言学家都曾指出。如日本著名的语言学家金田一春彦先生在其著作《日本語》(1988、岩波新书新版)中就指出,与汉语相比,日语的动词相对比较单纯,没有像与汉语中“拿、捧、端、提、带”等一一对应的单个动词。但是相反,日语中有丰富的拟态词,日本人可以通过使用拟态词来对其动作进行细致的描述。如“歩く(走)”,可以有“テクテク歩く、スタスタ歩く、ブラブラ歩く、ヨチヨチ歩く、トボトボ歩く、シャナリシャナリ歩く”等等。

对于自然界当中的某种声音或某种状态,以较为直观的、不带有具体意义的近似音去进行模拟表达,这种现象在任何一个语言里都存在。尤其是模拟声音的词汇,即“拟声词”(汉语中称“象声词”)就更为普遍。由于是用一种近似音的模拟表达,所以其表达方式就超出了各个语言的任意性,而带有某种必然的色彩。如“被人类最早驯化的家畜之一”“犬”的称呼,汉语叫“狗(gou)”,而日语叫“いぬ(inu)”,两者之间是任意的,找不出任何的关联性。然而,对于狗叫声的表达,就要相似许多。汉语使用“汪汪(wangwang)”,日语使用“ワンワン(wanwan)”,基本上相差无几。当然,也并不是说,所有的

拟声词或象声词就都完全一样或相似,如描写公鸡打鸣的声音,汉语使用“喔喔(wowo)”,而日语则使用“コケッコウ(kokekokkou)”,就不尽相同了。这里既有模拟侧重点的不同,也有各语言文字特点的影响(如汉语使用汉字,可能在表意方面比较容易,而在模拟声音时就受到一定限制)。即使是同样使用表音文字的语言之间,也不一定完全一样。曾经有学者将多种语言中,表达动物鸣叫声音的拟声词进行比较研究,发现即使是同一种动物,其不同语言的模拟结果,有时会截然不同,指出这里既可能有不同语言间的问题,也可能有不同民族捕捉声音的不同,甚至也还可能不同国家和地区的动物的鸣叫声本身就存在着不同的原因,这也许是动物当中的不同“语言”使然,也未可知。

然而,“以较为直观的、不带有具体意义的近似音去模拟表达某种状态”的拟态词是否发达,各语言之间就表现出了极大的不同。既有像日语这样“拟态词”非常发达的语言,也有像汉语这样,基本上没有与之相对应的特殊词类的语言。由于这一不同,给我们中国人学习日语就带来了很大的困难。即使是学习了多年的日语学习者,也很难区分“チクチク痛む、キリキリ痛む、ズキンズキン痛む、シクシク痛む”中不同拟态词所表示的意思,或者是很难把它翻译成准确的汉语。当然,这并不是说汉语中没有表达相同状态的表达方式。比如“チクチク痛む”,用汉语表达,我们可以说“像针扎一样的疼”。但是很明显,日语中“チクチク痛む”给人带来的语感和汉语中“像针扎一样的疼”给人带来的语感是很不一样的。从认知语言学的角度来看,使用拟态词“チクチク”这种表达方式给人带来的感受会是一种直觉的、感官的,真好像说话人本人就感受到疼痛样的感觉;而使用“像针扎一样”这种描述性的表达方式给人带来的是一种客观的描

述,我们可能会描述出“某个人正在用针扎某人”这样一幅客观的图画,至于说话者本人的直觉感受可能就是第二层的了。这也就是我们为什么说日语与汉语进行比较时,日语是更加依靠直觉、依靠主观的语言,而汉语则是更加客观的语言的原因所在之一。

当然,在汉语当中也有一些专为表状态的词语,如“~然”(悚然)、“~尔”(莞尔)的词汇,或“双声”(恍惚)、“叠韵”(灿烂)以及“ABB型”(亮闪闪)的词汇等等,都具有较强的描写状态的语义功能。然而这些词汇与日语的拟态词比较起来,其字义本身的功能要强得多,即使是形态较统一的“ABB型”词汇,如“亮闪闪”与日语的“ピカピカ光る”比较,汉语中“闪闪”的“闪”本身是表示“忽隐忽现”的动词,通过“闪”字的重叠而表示的一种状态,而日语中的“ピカ”本身是没有具体语义的,而使用这种本身没有具体语义的语音“ピカピカ”来形容一种“ものが光り輝いたり、つやがあって光っていたりするさま”的状态,其词汇构成的方式是完全不同的。汉语的构成方式更加依赖于其词意,而日语的构成方式更加来自于说话人的感官。然而有趣的是,在日本汉文受到崇尚的明治时代,日本文学家的笔下,有许多用汉语表达的词汇上标注了日语拟声词读法的假名,如“慄然(ブルブル)”、“莞爾(ニッコリ)”等,这说明日本人在理解这些汉语词汇时联想到的是日语中的这些拟态词,这也就为我们学习日语拟态词,或将日语拟态词与汉语中的相关词汇进行对比研究时提供了一定的客观依据。

总之,日语的拟声词、拟态词是一个非常值得研究、非常有趣的课题。为了达到对其进行综合研究的目的,本书的执笔者从不同的角度对日语拟声词、拟态词进行了综合性的研究。既有概观性的研究,也有与汉语的对比研究,既有现代日本人语言生活中报刊、杂志

中的拟声、拟态词分布情况的研究,也有具体到某一位作家或文学作品中拟声、拟态词使用情况的研究,还有具体的拟态词的类义研究及其分类研究等等。在书后我们还为读者提供了较为详细的相关研究文献目录。我们力图通过这样一种综合研究的方式,能对日语拟声词、拟态词研究本身,或者是对中国人学习和掌握日语拟声词、拟态词以及对中日两国语言对比研究的发展起到一定的作用。

本书的研究论著要目部分由博士生张琳、张雪协助整理,出版得到日本国际交流基金和学苑出版社的大力支持,在此一并表示感谢。

当然,由于我们水平有限,文中不免会有许多疏漏和错误,我们还希望学界同仁以及广大的读者和学习者给我们提出宝贵的意见。

徐一平

2010年3月

目 录

前 言	1
第一章 日本語擬音語・擬態語の概観	1
0 はじめに	1
1 日本語擬音語・擬態語の性質と特徴	2
1.1 擬音語・擬態語とは	2
1.2 擬音語・擬態語の日本語における位置	4
1.3 擬音語・擬態語と一般語彙の関係	8
1.4 擬音語・擬態語の意味表徴	12
2 中国語との対照的研究.....	17
2.1 日本語の擬音語と中国語の象声詞	17
2.2 日本語の漢語系擬態語と中国語の擬態語らしきもの	25
2.3 日本語で擬音語・擬態語が多く使われるもう一つの 原因	32
第二章 日本語擬音語・擬態語の翻訳と語釈	36
1 擬音語・擬態語の翻訳.....	36
1.1 翻訳作品に見られる脱訳と誤訳	36

1.2 実際に見る翻訳	38
2 擬音語・擬態語の語釈	48
2.1 従来辞典注釈の問題点	48
2.2 理想的な語釈方法	51
3 おわりに	53

第三章 小説、新聞、話し言葉における擬音語・擬態語の使用実態 56

0 はじめに	56
1 小説、新聞記事、話し言葉から擬声語・擬態語を抽出	64
2 小説、新聞記事、国会議事録における擬声語・擬態語の使用実態	67
3 小説、新聞、話し言葉に出ている擬声語・擬態語の分布	69
4 結び	71

第四章 「オノマトペ+スル」動詞の分類と用法 73

0 はじめに	73
1 先行研究と研究対象	73
2 「オノマトペ+スル」動詞の分類	75
2.1 動作性動詞	75
2.2 状態性動詞	77
2.3 動作状態性動詞	78
3 文中における用法	81
3.1 叙述用法	83
3.2 連体用法	85
4 おわりに	87

第五章 擬態語の類義表現	90
0 はじめに	90
1 擬態語類義表現研究の一つの試み—「しっかり」などを 例にとって	90
1.1 一つの試み	91
1.2 擬態類義表現の特徴	98
2 「ときどき」「ときおり」「おりおり」「ときたま」「たまたま」 「たまに」「まれに」「めったに」の区別	101
 第六章 鷗外と漱石の小説にみる漢語のオノマトペ	112
0 はじめに	112
1 なぜ漢語のオノマトペなのか	112
1.1 一般的な意味のオノマトペ	112
1.2 漢語のオノマトペとは	115
2 鷗外と漱石の漢語オノマトペの使用状況及びその特徴	119
2.1 漢語オノマトペの分類	119
2.2 語構成からみた特徴	125
2.3 接続の形からみた特徴	134
3 おわりに	138
 第七章 日语重叠式拟声词的意义及语法功能	141
0 序言	141
1 前人的研究及本章的调查资料	142
2 重叠式拟声词及非重叠式拟声词的结构	143
2.1 重叠式拟声词的结构	144

2.2 非重叠式拟声词的结构	145
3 重叠式拟声词的语音与意义的联系	146
4 重叠式拟声词的意义	149
4.1 重叠式拟声词的意义分类	149
4.2 重叠式拟声词与非重叠式拟声词意义的联系	152
5 重叠式拟声词的语法功能	154
5.1 作状语	154
5.2 作定语	155
5.3 作谓语	156
5.4 作独立成分	156
5.5 独立成句	156
6 小结	157

第八章 日语拟声词、拟态词的认知研究

——以《雪国》中译本为例	159
1 为何要从认知意义上研究日语的拟声、拟态词	159
2 《雪国》中拟声、拟态词的基本特点	160
2.1 分类统计	160
2.2 其他(借用汉字的词、叹词等)	161
3 三种译本的理解和表达	162
3.1 表达声音的词	163
3.2 表达心态的词	168
3.3 表达情貌的词	171
3.4 表达状态的词	174
4 日语拟声词、拟态词认知方面的主要问题	177
4.1 较易理解和翻译的	177
4.2 较难理解和翻译的	177

第九章 从拟声拟态词的使用看《源氏物语》的审美意识	180
1 《源氏物语》中拟声拟态词的概况	180
1.1 《源氏物语》拟声拟态词的数量	181
1.2 《源氏物语》拟声拟态词的音型	182
1.3 《源氏物语》拟声拟态词的修饰功能	184
2 《源氏物语》拟声拟态词所表现的审美意识	185
2.1 描写物体所发声音的词——“拟音语”	185
2.2 描写人或动物所发声音的词——“拟声语”	186
2.3 描写人物容貌的词——“拟容语”	187
2.4 描写人的心情、感觉的词——“拟情语”	194
2.5 描写外界状态的词——“拟态语”	195
附录 1	198
附录 2	208
拟声拟态词研究主要论著要目(汉语)	231
拟声拟态词研究主要论著要目(日语)	238
著者介绍	280

第一章 日本語擬音語・擬態語の概観

0 はじめに

日本語は何処が難しいか。「テニオハ」といわれる助詞が難しい、或いは敬語が難しいと連想される人が多いかもしれない。擬音語・擬態語の難しさが看過されることがある。しかし、日本語学習と日本語教育の経験が豊富な人が分かるように、日本語の擬音語と擬態語は決して無視できない難点のひとつである。

日本語は直感で分かる言語である。或いは日本語は感情色彩の濃い言語であるとよく指摘される。こういった特徴を十分に反映しているのは、正に擬音語・擬態語ではないかと思う。日本語の中に擬音語と擬態語が豊富にあるということは、日本語のひとつ大きな特徴として現れているのである。これはまた外国人が日本語を理解するには苦勞するひとつの難関になっている。

例えば、かなり日本語を勉強した人でも、「ズキンズキン痛む」、「シクシク痛む」、「キリキリ痛む」、「チクチク痛む」といった表現の中で使われている擬態語の違いを説明するのが難しいだろう。

日本人にとっては、これらの擬音語・擬態語、或いは新しく作られた擬音語・擬態語でも、完全に母語として培われた語感を通して捉えることができ、一々丁寧に辞書を調べる必要がないよう

ある。しかし、われわれ外国人日本語学習者にとってはそう簡単に解決される問題ではない。そして、多くの実用例から見てもそれを看取することができる。例えば、多くの翻訳作品や辞書の注釈を調べたら、その中に擬音語、擬態語の誤訳や間違いが存在していることは、日本語の擬音語・擬態語の難しさと複雑さをつぶさに物語っているのではないだろうか。

本章は二つの面から日本語の擬音語・擬態語を概観してみたいと思う。

第1節では、日本語擬音語・擬態語の一般的な性質と特徴を紹介する。第2節では、日本語の擬音語・擬態語を中国語の擬音語(象声詞)と擬似擬態語と対照してみる。

以上のような概観的な研究を通して、中国人日本語学習者または研究者に資することを期待するのである。

1 日本語擬音語・擬態語の性質と特徴

1.1 擬音語・擬態語とは

1.1.1 和語的擬音語・擬態語の定義(狭義)

まず擬音語・擬態語とは何かをはっきりさせなければならない(ここで言うのは和語のものを指す)。これは日本語の文章を調べると、いくらでも拾い出すことができる。

- (1) ぴかぴかする鉄砲をかついでいる。
- (2) 木の葉はかさかさと鳴った。
- (3) ふっふっと笑った。
- (4) 口を開けて、眼ばかりきょろきょろ動かしている。
- (5) そわそわした気持になった。

という例文の中の「ぴかぴか」、「かさかさ」、「ふっふっ」、「きょろき

よろ」、「そわそわ」などが皆そうである。それらのものを定義づけるならば、

擬音語は、自然界で生ずる種々の音や声を言語音で模写した語の一群

擬態語は、自然界に生起する様々の状態や人間の動作、心理などを、言語音で象徴的に表わした語の一群

ということになるのであろう。

1.1.2 漢語系の擬音語・擬態語の定義(広義)

上に述べた定義は、そもそも日本語固有のもの、つまり和語の擬音語・擬態語を指して言う狭義のものだが(以下、特に断らない場合は、和語的擬音語・擬態語を指す)、それに対して、日本語の中には、多くの中国から伝わった漢語系の擬音語・擬態語も存在しているのである。^① そうすると、先の定義にもう少し広げた広義的な内容を持たせなければならぬ。

漢語系擬音語は、自然界で生ずる種々の音と声を、漢語系の言語音で模写した語の一群(例:轟々)

漢語系擬態語は、自然界に生起する様々の状態や人間の動作、心理などを、漢語系の熟語で描写した語の一群(例:煌々、戦々競々)

以下本節では、主に和語の擬音語・擬態語を問題にするが、第2節の中国語との対照研究のところでは、漢語系の擬音語・擬態語に触れることにする。

1.1.3 擬音語・擬態語の分類

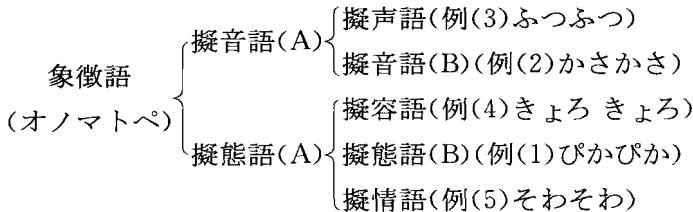
日本語の擬音語・擬態語を取り扱う参考書などを読むと、擬声

① これに賛成できない学者もいるが、本稿では、中国語との比較対照をも一つの課題としているため、理解の便宜上、やはり日本語には、和語の擬音語・擬態語がある一方、漢語系の擬音語・擬態語もあるとする立場に立って論を進めたいと思う。

語とか、擬容語などの用語にぶつかる。これらの名称は何を表わしているのか、そして、これらのものは擬音語・擬態語の名称とどういう関係で成り立っているのか、具体的に何を指しているのかという問題を明らかにする必要がある。

そもそも擬音語・擬態語の研究が始められた当初は、その両方を総称して、擬声語と言ったようである。後になって、自然界の音と人間、動物の声を模写した擬音語と、自然界の状態や人間の動作、心理を音で象徴させた擬態語に分かれたのである。更に、擬音語は、人間や動物の声を擬える擬声語と、自然界の音を擬える擬音語に、擬態語は、生物の容子を擬える擬容語と、無生物の状態を擬える擬態語にと、細かく分けられるようになった。この上で、金田一春彦氏は、また擬容語の中から、もっぱら人間の心情を形容するものを取り出して、新しく「擬情語」と名づけたのである。

これらのものの関係を図で示すと、次の通りである(誤解を招かないために、総称は象徴語、或はオノマトペを取る)。



なお、本稿は論じやすくするために、擬音語と擬態語という両用語を取る。いずれも(A)の方で、擬音語には声と音、擬態語には容・態・情がそれぞれ含まれるものとする。

1.2 擬音語・擬態語の日本語における位置

1.2.1 日本人に親しまれる擬音語・擬態語

擬音語・擬態語は言語において周辺的なものである。しかし、